

担い手の確保・育成 (船団等が新規就業者を支援する育成モデルの構築)

資料1-3-6

《対策のポイント》 ・潜在的な就業希望者を後継者不足に悩む漁業や地域とをつなぐ (地域の魅力を活かして、千葉で生活することを提案)。
 ・船団やグループによる生産活動を維持するため、それぞれが必要な人材を確保育成する。

《目標》 海士グループ: 3年間で6人が地域に定着 / 船団: 5年間で5~6人の船団への加入

〈対策の内容〉

[課題] 新規就業者が定着しにくい(漁村に馴染めない/漁業技術が身につかないなど)
 地区の海士の高齢化と減少、船団の縮小(人手もなく漁場管理ができない/操業安全確保困難)

➡ 方向)海士グループや船団が担い手を受入・育てる

1 海士グループの例

目的: 「海士漁業」を中心とした磯根漁業の就業者の確保・定着
 効果: 海士文化の継承
アワビ漁場の管理の為に必要な人材確保

2 船団の例

目的: 「釣り漁業」等の漁船漁業の就業者の確保・定着
 効果: 安全操業や資源管理などに必要な人材確保

〈対策のイメージ〉

従来からの就業支援

事業実施先	募集	相談	受入先	研修			定着
				体験	中・長期	フォロー	
荒波丸	系統団体	マッチング	荒波丸	就業希望者 ➡			荒波丸に定着
県域全体の漁業を紹介	募集をかけた漁船に乗る			↓ マッチング失敗	↓ マッチング失敗		マッチング失敗で定着せず
				↓ サポートが十分でない			
				↓ 定着失敗			

★マッチング失敗で最初からマッチングをやりなおし

海士漁業の場合
 都市部から過疎地域へ定住
 地域おこし協力隊事業(総務省)
 漁協をサポートするなど地域活動(市支援)
 漁協協力に必要な漁業制度などの研修(県支援)

育成モデルによる就業支援

実施先	募集	相談	受入先	研修			定着
				体験	中・長期	フォロー	
漁協(船団)(海士G)	系統団体・漁協	漁協(船団等)	大漁丸	就業希望者 ➡	➡	➡	大漁丸に定着
漁協(船団)(海士G)	漁協(船団)独自でも募集をかける	どの漁船に乗るかを船団が調整(海士Gも同様)		↓ マッチング失敗	↓ マッチング失敗		マッチング失敗でも豊漁丸に乗る
				↓ 漁協(船団等)がサポート			
				↓ 就業希望者	↓ 就業希望者	➡	豊漁丸に定着

★船団独自のPRができる

★マッチング失敗でもほかの漁船を探せる